

整形外科

1. 診療科紹介

後期研修期間は5年間である。日本整形外科学会の教育プログラムに準じて整形外科の研修を行う。そのうち最初の1年間は麻酔科、外科、内科、その他の科をこれまでの研修状況にあわせて本人の希望にて研修可能である。

その後4年間で整形外科認定医として必要な臨床経験、知識、技術を修得する。そのうち前半の2年は救急疾患を中心に全般的な整形外科疾患の治療にあたり、後半の2年は整形外科的な慢性疾患を中心に、また興味のある専門分野についても研修して戴く。年次別プログラムは次の通りである。

教育体制 教育責任者 宮澤 洋（日本整形外科学会整形外科認定医、認定スポーツ医、認定リウマチ医、日本肩関節学会員、身体障害者福祉法第15条第1項指定医）

スタッフ 高江洲 真（日本整形外科学会整形外科認定医、認定スポーツ医）
大沢 延行（日本整形外科学会整形外科認定医、認定リウマチ医、脊椎脊髄病医、日本体育協会公認スポーツドクター、日本温泉気候物理医学会温泉療法医）

取得可能な認定医、専門医

- ・日本整形外科学会認定医
- ・日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
- ・認定リウマチ医
- ・認定スポーツ医

2. 診療実績（年間）

外来患者数 10,184人（1日平均63.3人）

入院患者数 7,000人（1日平均32.7人）

手術件数（年間）237件

3. 研修内容

1) 整形外科1年次

入院患者を約10名担当し、主治医の指導のもと、その疾患の診断・検査・手術を学ぶ。

整形外科外来は週1回、専門医の指導のもと外来再診患者を中心に診察する。

救急疾患を中心に、主治医の指導のもと緊急処置・手術などを学ぶ。

【目標】

基本診察法、基本検査、画像診断、診療録記載などの習熟

入院患者リハビリテーション、患者の術前術後管理などの研修

脊椎、脊髄、四肢関節などの機能解剖と運動器疾患の病態の理解

緊急処置と保存的治療（ギプス固定、牽引療法）の習熟

2) 整形外科2年次

入院患者を約10名担当し、主治医の指導のもと、診断、検査、手術を学ぶ。

整形外科外来は週2回、外来再診患者を中心に診療。

救急疾患及び一般的な慢性疾患に対し、主治医の指導のもと手術などを実施する。

【目標】

一般的な整形外科疾患の診断と診療計画の確立
医療の社会的側面と社会保障制度の理解
リハビリテーションの正確な処方と実施
外科的手技の習熟（骨折手術、神経・腱の手術など）

3) 整形外科 3 年次

入院患者を約 10 名担当。
整形外科外来は週 3 回、外来初診及び再診患者を診療。
一般的な慢性疾患に対し、主治医の指導のもと手術などを実施する。

【目標】

整形外科疾患の正確な診断と診療計画の確立
患者の主訴、希望に対しての適切な対処
装具療法の習熟
外科的手技の習熟（脊椎脊髄疾患、関節形成術、血管手術、複雑な骨折手術）

4) 整形外科 4 年次

入院患者を約 10 名担当。
整形外科外来は週 3 回、外来初診及び再診患者を診療。
慢性疾患を、主治医の指導のもと手術を実施する。
希望する整形外科専門分野の研修。

【目標】

整形外科疾患の正確な診断と診療計画の確立
特殊病態に対する理解と対処
患者さまからの十分な信頼を得る事
専門分野での研修
外科的手技の習熟（脊椎脊髄疾患、関節形成術、血管手術、複雑な骨折手術）
『研修中に執刀する疾患及び手術の大略』

整形外科 1 年次

新鮮創傷処置、骨折手術（一般的なもの）、皮膚移植術、筋腱靭帯手術

整形外科 2 年次

骨折手術（比較的複雑なもの）、関節手術（関節鏡視下手術を含む）、
四肢切断術、神経・腱の手術、脊椎手術（椎弓切除術）

整形外科 3 年次

骨折手術（複雑なもの）、関節形成術（人工関節手術を含む）、
血管の手術（マイクロサージャリーを含む）、脊椎手術（脊椎固定術）

整形外科 4 年次

骨折手術（複雑なもの）、関節形成術（特殊な骨切り術を含む）、
四肢長調節手術、脊椎手術（微少侵襲手術、脊髄手術を含む）